



進路講演を行いました

2月7日（木）の6限目に、1、2年次生全員を対象に進路講演を行いました。

今回は、安芸市在住の 近藤 秀夫 さん をお招きして「働き方」についてお話をいただきました。

近藤さんは、若い頃ケガをされ車いすで生活をされており、先の東京オリンピックの年、東京パラリンピックに何と6種目参加されたそうです。（また機会があれば話して下さるといことです。）

近藤さんは、「仕事には分担がある。障害はエネルギーであり、パワーである。障害にはプラスのパワーがある。障害によって振り返ると個性的な人生を送れた。考え方一つで見える世界が変わる。新しい人生が始まる。人生が始まるということは、『どうしたらいいのだろう？』と考えること。」等々、色々な視点を示していただきました。



【生徒の感想 今日講座で私が学んだことは】

- ・ マイナスなことだけでなく、プラスなこともある。
- ・ 障害者は、世の中で色々なことで役立っていること。
- ・ 障害者でもがんばれば何でもできること。
- ・ 障害があっても決してマイナスではなく、捉え方や見方しだいではプラスにもなる。
- ・ 障害を持っていてもすごく役に立るといこと
- ・ 障害者にもできる事がある。 障害者だからといって不幸ではない。
- ・ 若い時から今までケガをして、車いすに乗ったり、パラリンピックの選手になったり、福祉のケースワーカーになったり、ということ聞いたことが印象的に残りました。
- ・ 障害者でも人助けができる。
- ・ 戦時中の食事は 1 回でもできればいい方だということ。
- ・ 近藤さんがあった頑固なおじさんとの交流の話。
- ・ たとえ障害があっても、生きることをあきらめない。
- ・ コミュニケーション力は大切。
- ・ 障害はマイナスではない。エネルギーでありパワーでもあることが分かった。
- ・ 友達は大事にすべき。
- ・ 社会ではマイナスとされていることも、見え方を変えればプラスにかえればプラスに変えられることが分かった。
- ・ 障害はマイナスではなく、プラスにもなるといことがわかった。
- ・ 人とのかかわり方。
- ・ 障害者のメリット。
- ・ 障害と言っても問題はない。
- ・ 障害者は障害者なりにやるべきことがある。
- ・ 世間ではマイナスなことも、人によっては、世間でマイナスなことでもプラスに変わる。
- ・ まだまだ、先がある。